

「あつぼん」名古屋をゆく

作家・司馬遼太郎「街道をゆく」シリーズにならい、「郡道をゆく」「山崎川をゆく」をレポートしてきた。今回は「あつぼん」名古屋をゆく。

あの日6月24日、「あつぼん」親子は、地下鉄で名古屋駅(通称「名駅」)まで行き、ホテルに向かった。ここで、困ったことが。巨大な地下街からエレベーターでホテルの方に向かおうとするが、なかなか場所が分からない。車いすを押し、地下街をぐるぐる回り、へとへとになってホテルに着いたという。

フェイスブックには「名古屋、ちょっと東京級に分かりにくい都市構造」だと、お叱りの言葉も並んでいた。後日これを知り、名古屋のまちづくりを研究してきた一人として恥ずかしく、申しわけなく思った。名駅は「迷駅」と言われるように、とにかく分かりにくい。「移動のバリア」があり、とりわけ障害をもつ人やお年寄りから不満の声が聞かれる。とりわけ地下鉄から JR・名鉄・近鉄などへの乗り換え、入り組んだ地下街から地上への移動が問題だ。名駅はリニア新幹線の開業を見越して、開発ラッシュに沸く。名駅改造計画も検討されている。10年も先まで待てない。せめてエレベーター「案内」表示を早急に改善するなど、名古屋の「玄関口」を分かりやすく、バリアをすこしでも減らすべきだ。

ホテル地下のビアレストランで、さっそくビールと「名古屋めし」で一服。「あつぼん」はビールではなく、グレープフルーツを堪能。まるでビールを飲んだかのような「あつぼん」。ご満悦。



翌日は名古屋見物に。「メーグル」という名の、観光拠点をぐるぐる回る循環バスを利用。これも乗り場が分かりにくいと不評だったが、最近は改善されたようだ。名古屋市の担当者に再三「注文」したこともあり、なんだかほっとした。メーグルに乗って、「あつぼん」は目がぐるぐると回らなかつただろうか。



天気の関係により、名古屋城を避けて徳川園で下車。これは正解だ。徳川美術館は尾張徳川の「歴史遺産」を堪能できる。名古屋のまちづくりを学生と一緒に調査・研究して、観光についても長年「勘考」してきた。観光スポットとして、徳川美術館を気に入ってもらえたようで、「勘考」の成果として嬉しくなった。



(2017年7月5日)